

図書館催し物予定(6/15～7/15)

中央図書館	第一図書館	第二図書館	第三図書館	第四図書館	イプラザ図書館
稲城市向陽台4-6-18 TEL:042-378-7111 FAX:042-378-7162	稲城市東長沼2111 TEL:042-377-2123 FAX:042-378-9612	稲城市矢野口1780 TEL:042-377-1866 FAX:042-377-1866	稲城市平尾1-20-5 TEL:042-331-1439 FAX:042-331-1439	稲城市東長沼271 TEL:042-378-2401 FAX:042-378-2401	稲城市若葉台2-5-2 TEL:042-331-1731 FAX:042-331-1716
開館時間／9:00～20:00	開館時間／10:00～17:00				開館 9:00～ 時間 20:00
えほんのじかん 毎週日曜日 11:00～ おひざにだっこのおはなし会 毎週金曜日 11:00～ 第四日曜日 10:00～ おはなしの会 毎週土曜日(第3土曜日はアニメシオン) 15:00～	映画会(一般) 6/28(水) 「雨に唄えば」 14:00～ 映画会(児童) 7/23(日) 「子どもどうぶつ劇場4／キツネ・カッコウ」 14:00～ 親子でたのしむ科学あそび 7/17(月・祝) 14:00～16:00 mBotを使ったプログラミング教室 7/22(土) 14:00～16:00 図書館何でも調べ団 7/23(日)・ 7/28(金) 10:00～11:30	おひざにだっこのおはなし会 毎週金曜日 10:30～ 児童室 えほんのじかん 第1・3木曜日 15:30～ おはなしコーナー	おひざにだっこのおはなし会 毎週水曜日 10:30～ えほんのじかん 第1・3木曜日 15:30～ おはなしコーナー	おひざにだっこのおはなし会 第1・3金曜日 10:30～ 第四文化センター2階和室 えほんのじかん 毎週火曜日 15:30～ おはなし室	おひざにだっこのおはなし会 毎週水曜日 たんぽぽのじかん (0才～1才半向け) 10:30～ ひまわりのじかん (1才半～2・3才向け) 11:00～ iプラザ2階 保育室 えほんのじかん 毎週水曜日 15:30～ 図書館内 はだしのコーナー

展示予定(6/25まで)

・特集コーナー

「50年前ヘタイムトラベル」

・インナーコリドー

「稲城市立図書館開館50周年」

・児童室

「家族」とくしゅう

・AV架

DVD展示「SF・宇宙への旅立ち」

6月、7月の休館日

中央図書館

毎月第4月曜日

6月:26
7月:24

第一～第四図書館

毎週月曜日・祝日

6月:(～6/2(金)まで第一・第三 特別整理期間)5(火)～6/9(金)まで第二・第四 特別整理期間)・12・19・26
7月:3・10・17・24・31

iプラザ図書館

毎月第2・第4月曜日

6月:12～15(特別整理期間)・26
7月:10・24

※中央図書館・iプラザ図書館ともに、月曜日が祝日の場合は翌火曜日を休館日といたします。



編集後記

今号では夏休み前から序盤にかけて行われる、小学生が対象のイベント情報が盛りだくさんです。どれも夏休みの自由研究の参考になる催しになっております。

図書館には調べものに役立つ資料がたくさんあります。イベントに関わらず、探している本や調べもの相談などお気軽に図書館カウンターの職員、スタッフにお声がけください。

▶ 音声版「ひばり」は、図書館ホームページのメニュー「図書館だより」からご利用になれます。

▶ 音声版「ひばり」CDをご希望の方は、中央図書館にご連絡ください。

ひばりと
合わせて
ご覧ください!



稲城市立図書館 HP



Twitter



Facebook



note

いなぎ図書館だより



ひばり

第204号

令和5年6月15日

稲城市立図書館

<https://www.library.inagi.tokyo.jp/>



稲城市立図書館50周年記念事業

mBot を使った

プログラミング教室

ビジュアルプログラミング環境

「mBlock(エムブロック)」で

制御することのできる、

プログラミングロボット「mBot(エムボット)」を
使って、楽しくプログラミングを学んでみましょう。



▼期 日：7月22日(土)

▼時 間：午後2時～4時

▼会 場：城山体験学習館・視聴覚室(中央図書館併設)

▼講 師：(株)KSK社員

※稲城市を拠点とするIT企業

▼対 象：小学4年生～中学生

▼定 員：15人

▼申 込：6月25日(日)までに、メールにて受付。

※定員を超えた場合は抽選となります。

▼問合せ：中央図書館 ☎042-378-7111

▼MAIL：inagilib@library.inagi.tokyo.jp



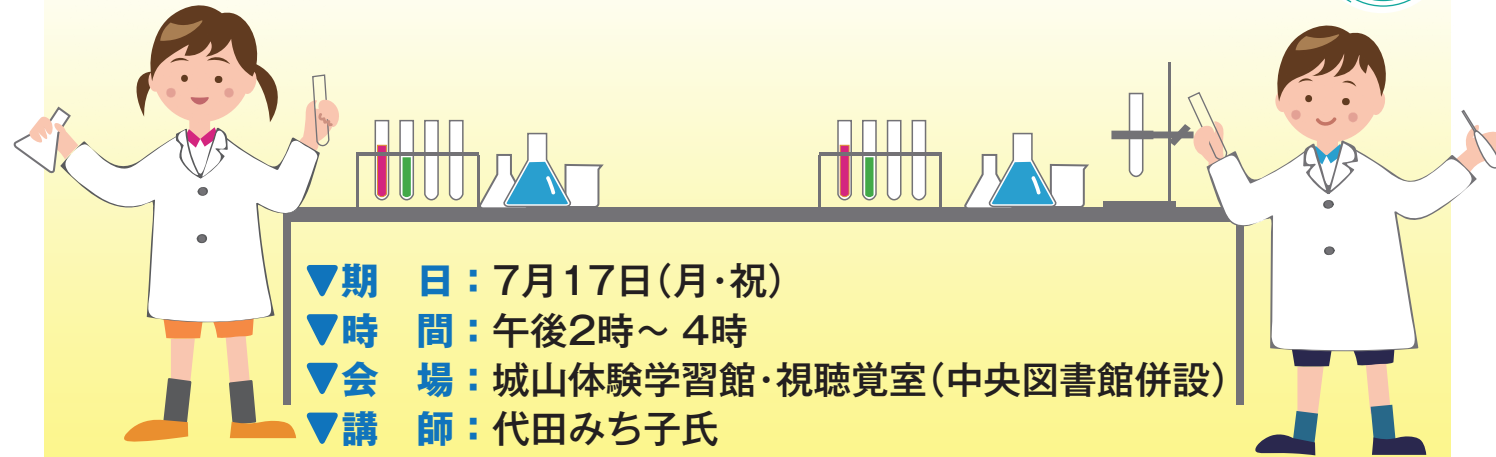
▲申し込みフォーム



Copyright (株) KSK

稲城市立図書館 50 周年記念事業

親子でたのしむ科学あそび



- ▼期 日：7月17日(月・祝)
- ▼時 間：午後2時～4時
- ▼会 場：城山体験学習館・視聴覚室(中央図書館併設)
- ▼講 師：代田みち子氏
(「子どもと科学をつなぐ会」代表)
- ▼対 象：市内在住の小学1年生～4年生の親子(子供のみも可)
- ▼定 員：25人 *付き添いは一人まで
- ▼申 込：6月15日(木)から中央図書館カウンターまたは電話にて受付。
- ▼問合せ：中央図書館 ☎042-378-7111

こどもえいが会



『子どもどうぶつ劇場4／キツネ・カッコウ』

- ▼期 日：7月23日(日)
- ▼時 間：午後2時15分～2時50分
(午後2時開場)
- ▼会 場：城山体験学習館・視聴覚室
(中央図書館併設)
- ▼対 象：児童および保護者
- ▼定 員：50人(先着順)
☆申込みは不要です。直接会場にお越しください。
- ▼問合せ：中央図書館 ☎042-378-7111

いなぎ多読らぶ



中央図書館では、
毎月第二土曜日に
英語多読を楽しむためのサークルを開催して
います。※途中入室・退室可能
たくさんの方のご参加をお待ちしております!

- 日時 7月8日(土)午後2時～4時
- 会場 城山体験学習館・視聴覚室(中央図書館併設)
- 申込みは不要です。直接会場にお越しください。
- 問合せ 中央図書館 ☎042-378-7111

図書館何でも調べ団



図書館の本などを使って、調べもののコツを楽しく身に付けることができる講座です。

夏休みの宿題や自由研究で困っていることはありませんか？
図書館の司書が相談にのります。

- ▼期 日：①7月23日(日) ②7月28日(金)
- ▼時 間：午前10時～11時半
- ▼会 場：中央図書館
- ▼対 象：小学3年生～6年生
- ▼定 員：各回3人(先着順)
- ▼申 込：6月15日(木)から中央図書館カウンターまたは電話、メールにて受付。
- ▼問合せ：中央図書館 ☎042-378-7111
- ▼MAIL：inagilib@library.inagi.tokyo.jp



▲申し込みフォーム

「nakanohito」

第37弾

このコーナーでは私たち図書館の“nakanohito(中の人)”がオススメ本の紹介やコラム、エッセイをお届けします。

小学生の娘が長野県に山村留学して1年が経ちました。

留学以来、長野県に関する本や、娘の山村留学先の暮らしに合った本が目に残るようになり、山村留学先に3冊の本を寄贈したので紹介します。

1冊目は、絵本の『えんどうまめばあさんとそらまめじいさんのいそがしい毎日』(松岡享子／原案・文 降矢なな／文・絵 福音館書店)。えんどうまめばあさんとそらまめじいさんが、畑仕事をしたり、鶏の世話をしたり、薪作業したり、朝から晩まで忙しく暮らしている様子が子どもたちの暮らしそのものだと感じました。また、冒頭の「『暮らす』ということが大事。いそがしく、たのしくね。」という松岡享子さんのメッセージが、娘たちへのメッセージ!と思うほどでした。

2冊目は、『命の境界線 保護されるシカと駆除される鹿』(今西乃子／著 浜田一男／写真 滋賀県多賀町役場+奈良の鹿愛護会／取材協力 合同出版)。この本は、留学先に行った際に、村の方が罠にかかった子鹿を届けてくれて、子どもたちがスタッフと一緒に捌いているのを見た後に、図書館の書架で見つけました。娘が暮らしている所では飼っている鶏を絞めることもあります。命と向き合う子どもたちに読んでもらえれば、と思います。

最後は、『季節のごちそう ハチごはん』(横塚眞己人／写真と文 ほるぷ出版)。スタッフのSNSで子どもたちがスズメバチの子を食べたことを知り、書架で見つけたこの本を贈ることにしました。長野には蜂の子を食べる文化があり、お土産屋さんでも味付けされたものが売られています。今回は、村の方からスズメバチの「ほぼ幼虫」「ほぼ成虫」「成虫」の三種類をいただいたそうで、これはスタッフも滅多にお目にかかれない貴重なものだそうです。(10年ぶりとか!) いただいた蜂の子は、素揚げにして塩をちょっと振ったり、醤油をちょっと垂らして食べたとか。幼虫と成虫で味が違い、濃厚で美味しいとのことでした。

しかし、その後娘に蜂の子を食べたかどうか聞いてみたら「食べなかった…」と。食べることはできなかったようですが、地域の文化に触れただけでも、貴重な経験になったのでは、と思います。今年度の子どもたちも蜂の子にお目にかかれるかわかりませんが、この本が地域の文化を知る一助になれば、と思います。